

授業展開事例③

小中学校のエコ授業を何回もさせていただいた経験から、リサイクルとリユースの違いを、楽しく、わかりやすく、子どもたちに考えてもらう工夫をご紹介します。

■ 教える際の留意点

せっかくのエコ授業の機会なのに、環境問題って難しい、うっとうしい、という印象を与えてしまったりは逆効果、もったいない…ですので以下のことに留意します。

- ① 情報量は少なく。
- ② 知識より楽しさを体験できる機会をつくる。
- ③ 環境問題が自分の生活とつながっている、と感じてもらえるように。
- ④ のんびり、ゆたかに、時にはおいしく、というような気持で

■ 工夫1. 容器ひも

空き容器をたくさんつるしたひも（58ページの写真参照）。これは何でしょう？と問いかけると、たくさんのかたえが返ってくる。リサイクル、資源、ごみ、などという答えが多いと思う。

クイズを楽しみながら、時間をかけて「容器」「入れ物」という答えを引き出す。

中身を出した途端に邪魔ものになる容器、必要なのは中身なのに…？

「家庭ごみの容積比で5割程度、重量比で2割強が何かの容器包装である」こと^(*)「そもそもごみを捨てるのはただじゃない」ことを伝え、使い捨てる容器を減らせばごみが減り、ごみ処理やリサイクルにかかる費用を節約できることに気づかせる。

じゃあ、どうすれば「容器包装ごみ」を減らせるかな…？考えさせる。子どもたちの発想で思いがけず素晴らしい解決方法が出てくるかも…正解を見つけないというより、自分たちが未来を担っていること、問題

を解決する当事者であることに気付かせる。

昔はざるや鍋を持って買いに行った玉子や豆腐などの例や、一升びんを持って中身だけを買う事ができた例などを紹介する。そうすれば容器ごみは全く出ない。

この容器ひもにつるした容器は1～2日で集められる、それくらい身の回りに容器ごみがあふれている。時間があればごみの分別の学習にも使えます。

■ 工夫2. 紙芝居

紙芝居という手法は効果的という手ごたえがある。伝えたい内容を前もって内容に盛り込むことができる。雰囲気を変え、目と耳の両方から入る情報が印象に残るように思われる。

オリジナルのものを作る場合、大切なのは教科書的、図鑑的にならないこと、情報量を削り「おはなし」として愛されるようなものに仕上げたい。

授業では子どもたちに読んでもらったり、市民グループの担当する授業の場合、先生に読んでいただいたりすると盛り上がる（58ページの写真参照）。

■ 工夫3. リユースびんとリサイクルびんの比較

リユースびんとしてRマークびん、なければ一升びんなどで中身がちがうものを何本か集める。

リサイクルびんは同じ内容のもの、たとえばそうめんつゆならそうめんつゆばかりの空きびん。

「どこがどう違うかな？」クイズ形式でそれぞれのグループを目で見て比較。

リユースびんは形や容量が同じなのに中身が全部ちがうこと、リサイクルびんは同じ中身なのにびんの形や容量が全部ちがうことを発見させる。

お店に行けばたとえばそうめんつゆは何十種類もの容器があること、リユースするための条件について言及する。

^(*) 出典：環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査の概要 平成23年度」より